

田 所 遺 跡

調査の経過 田所遺跡は、尾張北部の一宮市大字田所・光明寺及び葉栗郡木曾川町大字黒田にかけて位置し、木曾川の形成した標高8m前後の自然堤防及び後背湿地に分布している。

本遺跡は、平成4年度以来東海北陸自動車道建設に伴う事前調査として、日本道路公団及び愛知県土木部より愛知県教育委員会をとおして委託され、本センターが調査を実施した。今年度は6月～8月にA区(800m²)、8月～11月にB区(3200m²)、B区と同時進行で11月C区(500m²)の計4500m²を発掘調査した。その結果予定調査面積の9割が完了したこととなった。
(高橋信明)

調査の概要 A a区は93I区の北側に位置した道路部分で、現水田の床土下の黒褐色土層で遺構の検

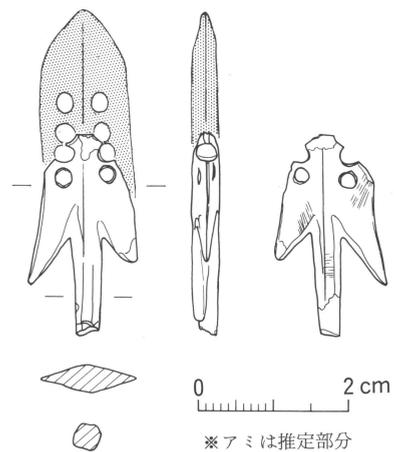
A 区 出を行い溝、土坑、井戸を検出した。遺構内からは13世紀～14世紀にかけての遺物が出土。調査区中央から昨年までの調査により確認された南北に走る大溝の続きを検出した。

A b区は93J区の北側に位置し、溝、土坑を検出した。出土遺物は13世紀～14世紀にかけての遺物とその主体を占め、他に鳥鈕蓋付平瓶の尾の破片や調査区中央トレンチの湿地性堆積土より縄紋晩期の擦痕土器片が出土。

B 区 B区はB a・B b区がある。B a区の北西部分が92E区の南側と接している。

B a区は調査区の西側半分、B b区は調査区の東半分である。南北に走る溝、土坑、柱穴を検出した。出土遺物のほとんどが13世紀～14世紀にかけての遺物である。92E区の東側から屈曲し東に走ると推定されていた大溝の位置から、遺構検出面を突き破った噴砂の砂層が認められたのみで大溝はなかった。

B a区北西側の溝から灰釉系陶器片に混じり上半部が欠損した、右図の多孔銅鏃が出土。(小澤一弘)

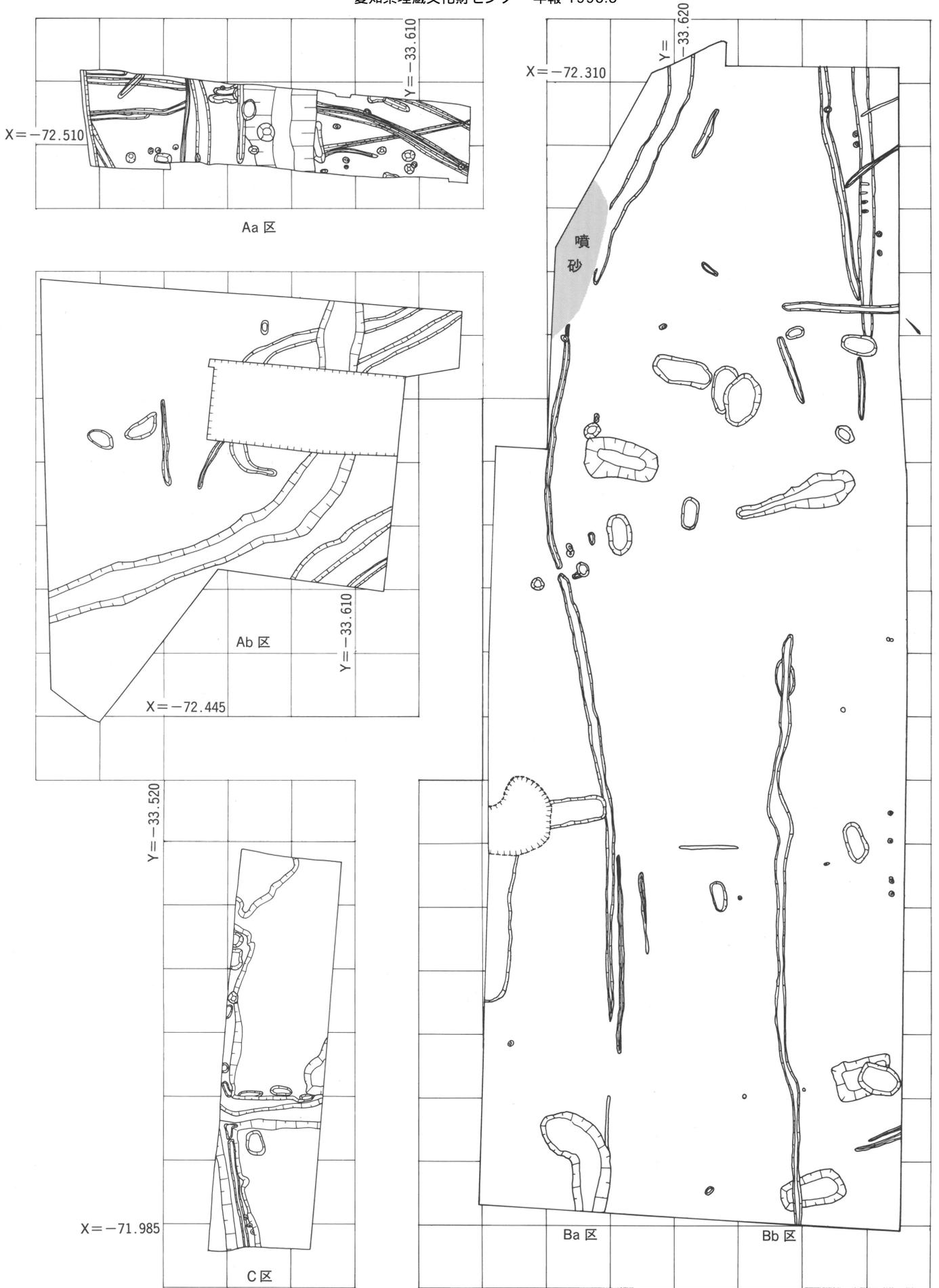


第1図 B a区出土遺物

C 区 本調査区は、昨年度の田所遺跡94A区の北東部に接する。昨年度の調査所見から最も保存状態の良い区と考えていた。しかし、古墳前期の遺構・遺物は西壁よりでわずかに確認できたにすぎない。遺構としては、中世に掘削された南北2つの凹地を検出したに留まった。凹地を区画する東西の高まりは土手状で道の機能も考えられる。遺物は灰釉系陶器片が圧倒的に目立つが、右の拓本は、古墳前期の壺に描かれた絵画土器片である。船と頭部に飾り付けした人物を表現したモチーフであろうか。
(高橋信明)



第2図 C区出土遺物拓影(1:2)



第3図 A区～C区遺構全体図